

横浜市インフルエンザ流行情報 4号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

インフルエンザ警報が発令されました

【概況】

第4週(1月21日～27日)に定点^{※1}あたり41.80となり、警報が発令されました。学級閉鎖も急激に増加しています。市内ウイルスの検出はAH3亜型(A香港型)が多く、全国^{※2}と同様の傾向です。

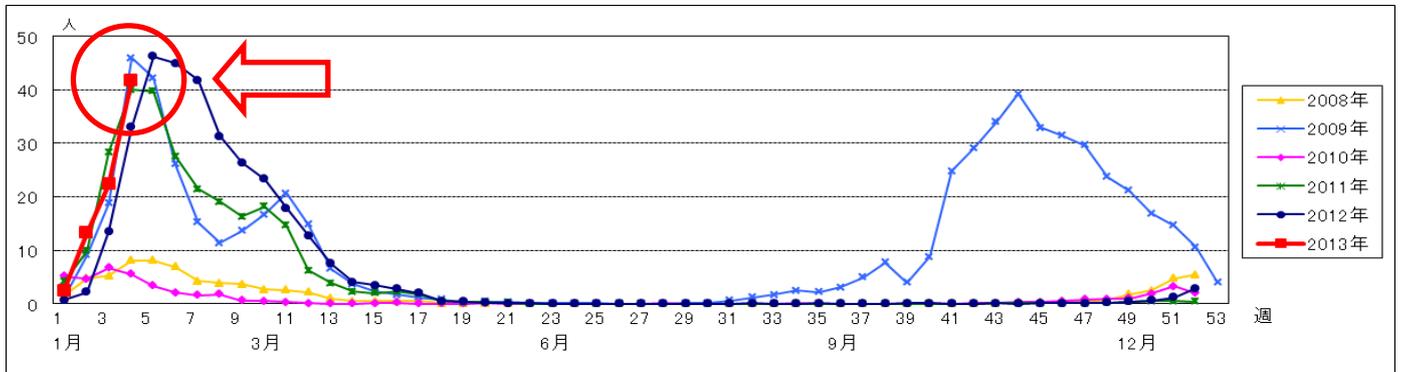
インフルエンザの予防では、手洗い、うがいを心がけ、人混みを避け、規則正しく生活するなどの健康管理が大切です。もしインフルエンザに罹った場合は、早めに医療機関を受診^{※3}しましょう。

※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内152か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

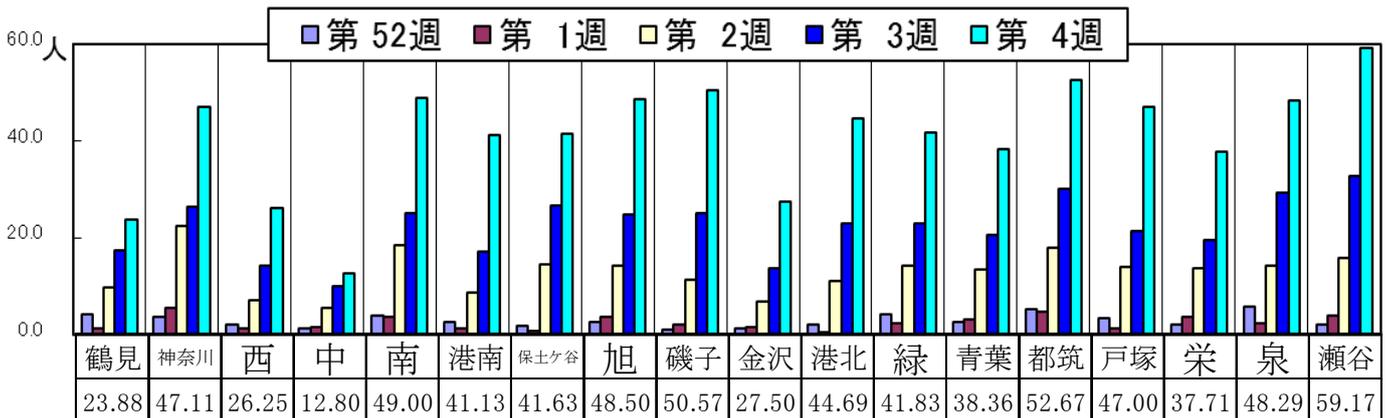
※2 インフルエンザウイルス分離・検出速報(国立感染症研究所)

※3 平成24年度 今冬のインフルエンザ総合対策について(厚生労働省)

1 市内流行状況:第4週に定点あたり41.80と急激に増加し、警報レベル(30.00)を上回りました。第4週での警報発令は昨シーズンと同時期です。

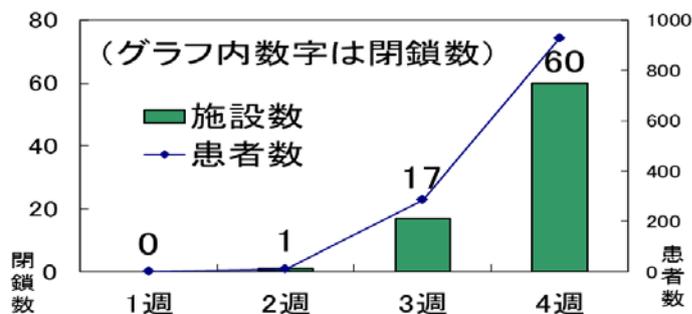


2 区別流行状況:最も多い区は瀬谷区59.17で、次に都筑区52.67、磯子区50.57です。14区で警報レベル、4区で注意報レベルを上回っています。

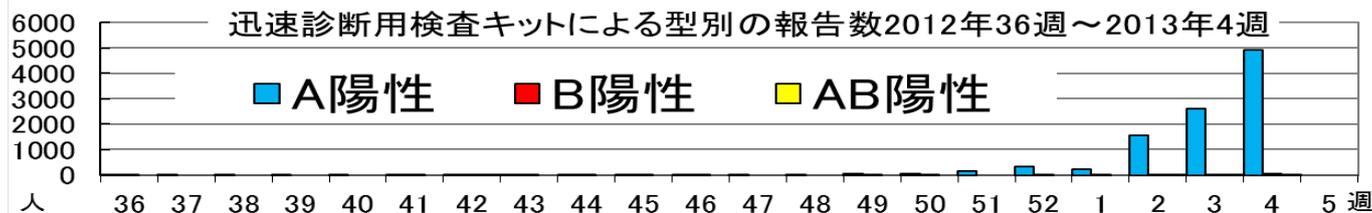


3 市内学級閉鎖等状況:第 4 週に入り、急激に増加しています。第 4 週の施設種別では、多い順に小学校 33 件、幼稚園 14 件、中学校 10 件、高校 3 件です。

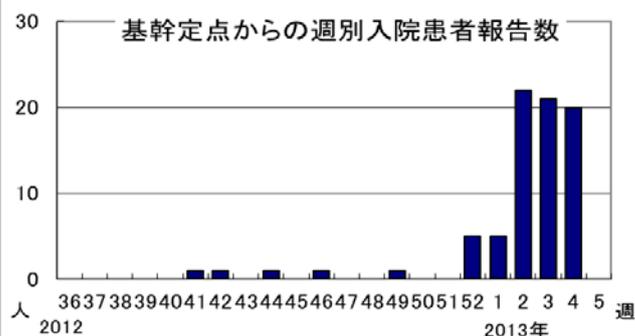
4 年齢層別集計:直近 5 週間(第 52~4 週)の累計では、10 歳未満の患者が最も多く、その内訳では 4~6 歳を中心に多くなっていました。



5 迅速キット結果:第 4 週では、迅速キット陽性例のうち、A 型 99.0%、B 型 1.0%、A、B 型ともに陽性 0.1%となっており、A 型がほとんどを占めています。



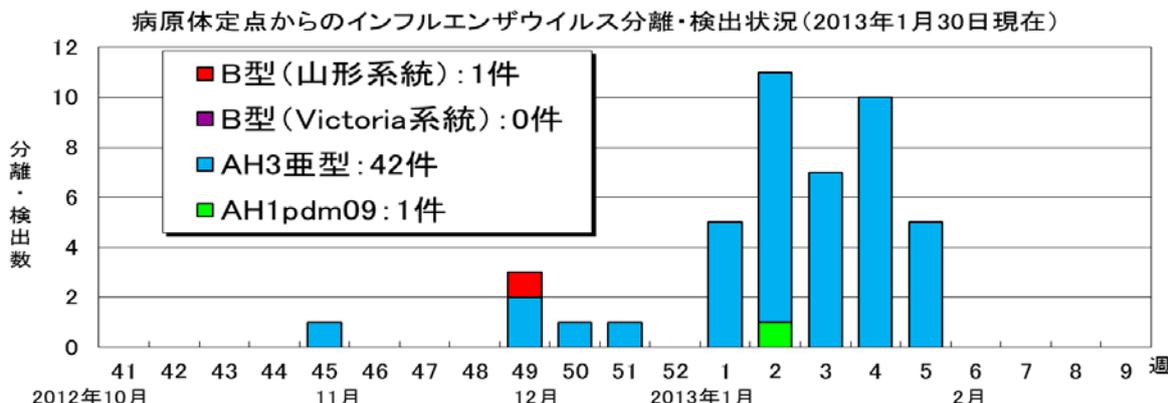
6 入院サーベイランス:基幹定点^{※4} 医療機関における、インフルエンザの入院患者数の集計では、入院患者数は第 2 週以降急激に増加しました。年齢層別(累計)では、70 歳以上(46.2%)と 10 歳未満(34.6%)、で 80%以上を占めています。



※4 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。

7 市内病原体検出状況:今シーズンに入り、市内では病原体定点^{※5} から計 44 件インフルエンザウイルスが分離・検出されており、そのうち AH3 亜型が 42 件(95.5%)とほとんどを占め、全国と同様の傾向です。また、集団の事例からも AH3 亜型が検出されています。

※5 病原体定点・・・病原体検索の検体採取に協力していただいている医療機関(市内 17 か所)



【お問い合わせ先】 横浜市健康福祉局健康安全課
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(671)2463
TEL 045(754)9815